



問題だらけの 「対話の場」

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

<http://kakugomi.no.coocon.jp/>

<https://www.facebook.com/106569234530018/>



No.24 2021年4月26日発行

【第一回「対話の場」終了】

4月14日（水）に、はじめての「対話の場」が開かれました。

「対話の場」とは、文献調査の一環として、町とNUMOが、事業の理解を得るために行うものです。町内から20人が選ばれ、この4月から月に1回のペースで行われる予定となっています。

しかし、「対話」といっても、会則には「地層処分事業等の理解を深めていただく」とあり、地層処分を進めることが前提となっています。つまり、「地層処分すること自体がおかしい」と意見を言っても、国の政策に反映されたり、寿都町で始まった文献調査を撤回されたりするような仕組みにはなっていないのです。

参加者も、町が一方向的に決めた人たちで、文献調査に反対するメンバーも含まれてはいますが、恣意的な人選です。たとえば、20人中、女性は1人のみ。年齢も60歳以上と思われる人たちばかりで、今後、核のゴミの調査が進むなかで、関わりが大きくなる若い人たちの姿はありませんでした。片岡町長が行うとしていた公募も行われませんでした。

さらに、参加者名も公開されず、参加者には議論の内容を口外しないようにとも求めています。いずれも、とても納得のいくものとは言えません。一部参加者がこのことを指摘し、今回の2時間の会合は、会則案をめぐる議論で終わりました。

一部マスコミは、反対した人たちが紛糾させたと報道していましたが、そもそもは、町政を大きく揺るがす核のゴミの文献調査を全員協議会という非公開の場で議論し、肌感覚で住民の過半数が賛成していると強弁して応募した片岡町長のやり方に問題がありました。文献調査の賛否について住民投票を行わなかったツケが現れているのです。



【委員の樋谷和幸さん、ファシリテーターの東田秀美さんに訊く】

我らが風太くんが、「対話の場」に出席した樋谷和幸さん（町民の会正会員、リコールの会共同代表）に参加しての感想を尋ねました。また、ネット中継で閲覧した東田秀美さん（町民の会事務局、NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長、核ゴミ問題を考える北海道会議事務局）に、ファシリテーターの専門家として、今回の「対話の場」の問題点を伺いました。



樋谷さん、こんにちは！ 昨年からずっと落ち着かないっしょ？

やあ、こんにちは。ペンションも畑も忙しいのに、ホント余計なことが出てきたもんだわ。



はじめての「対話の場」お疲れさまでした。でも、核のゴミに反対している樋谷さんがなして「対話の場」に呼ばれたの？

俺もよく分からないんだよね。はじめは委員は公募するって言ってたっしょ？ その公募がなくなったと思ったら、役場から委員になってくれと依頼が来たんだよね。



役場も、どうして樋谷さんをわざわざ選んだのかな？

風のごはんやの代表をやってるから、という理由だったよ。委員は、議員が9人、産業団体の代表が5人、あとは、町内会長や福祉関係者たちが選ばれて、全員で20人。



ということは、一般町民というよりも、各団体の代表者を選ぶという形だったんだね。「紛糾」とマスコミが言っていたけど、実際どうだったの？

べつに紛糾なんてしないさ。寿都弁は語気が強いから、そう感じただけでしょ。参加者をグループに分けて、会則について話し合うというから、それは順番が違うでしょうと、俺や一部議員が言ったのさ。



どういうこと？

つまりね。この話し合いのそもそもの目的はなんなのか、はじめに、そこをはっきり決めないと、話し合いをすることはできないんだよ。



なるほど。で、役場とNUMOの出してきた会則案は地層処分ありきのものだったから、それはおかしいという話につながるわけだね。

そういうことさ。それに、俺はあくまでも、ごはんやの代表として出席したんだからね。ごはんやの皆にはあらかじめ意見をもらったし、報告もしなきゃなんない。それなのに、口外するなという会則があるわけだね。他の団体代表も困っていると思うよ。



オイラ、ネット中継を見ていたら、司会の人がかえって場を混乱させていたように思うけど、そもそもファシリテーションってのは何なの？ あの司会のやり方が正しいわけ？

そのへんは詳しい東田さんにバトンタッチするわ。





では、東田さんにも話を聞きましょう。東田さんは、カクジュウ佐藤家や鯉御殿の保存活用のために何年も前から寿都に関わっていたんだよね？



そうなのさー。私は2014年から寿都に来ているよ。あの頃、鯉御殿の橋本敏子さんと寿都町役場の関係がすっかりいなくて、私は歴史的建造物の市民活動家として、寿都町に通うようになったよ。



それで、核のゴミにも黙っておれず、町民の会発足直後から手伝ってくれているんだよね。オイラ感謝してるよ！ところで、ファシリテーションというのは何なの？今回の問題もあわせて教えて。



ファシリテーションというのは、話し合いを活性化したり、合意形成や相互理解をサポートすること。それを担当する人をファシリテーターと呼ぶよ。ただ、ファシリテーションの大前提は、目的の合意、情報共有、中立公平、基本は公開。そして、ファシリテーターは、場をコントロールしてはいけないのさ。



ということは、今回の場をファシリテーションとか、司会の人をファシリテーターと呼ぶには、何かが違っていたということ？



そのとおり！そもそも文献調査への応募は、片岡町長の一方的な考えや行動から始まったこと。「対話の場」というけれど、NUMOの地層処分事業を理解するという目的では、町民の全体が合意できないのは当たり前。ましてや、NUMOとまちづくりの話をするなんて・・・その必要性はないと思う。それを都合よく「対話の場」と言ったり、その目的のための役割を「ファシリテーター」と呼ぶなんて、本当の対話の場を創ることに心を尽くしているファシリテーターたちが怒るよ。



へえ～～～、じゃあ、東田さんも怒っているの？（ドキドキ）



怒っているよ！そして、経産省がそんな考えで進めていることが、情けないし、悲しい。対話の場、ファシリテーションやファシリテーターって、こういう目的や役目だったかな？と思う。こんな風に都合よく使われるのは、ファシリテーターへの冒涇じゃないのかな？って。



これから、どうなるのかな？どうなっていくのが良いのかな？



町民の会は、NUMOの対話の場よりも早く、寿都町民同士の公平な対話の場として「くっちゃべる会」を作っていたから、まずはそこから寿都町のまちづくりを語るのが良いと思う。そこには道内のファシリテーターや道外からも応援が来て、対話の場を作っているからね。それから、3月14日に全道レベルで設立した「核ゴミ問題を考える北海道会議」は、寿都の「くっちゃべる会」の活動に賛同して、次は全道各地で対話の場を作ろうとしている。核ゴミ問題について、地層処分ありきではない、巨額の交付金ありきではない、本当の対話の場づくりがアチコチで進むといいな。



なるほど！ そうなのか～。心強いな！ 槌谷さん、東田さん、ありがとう。

かわはら先生の 核ゴミ 出前授業

in 寿都町

原発出前授業で有名なかわはらしげお先生が寿都町にや
ってきます！ 今回の授業のテーマは「核ゴミ」です。小中学
生からお母さんお父さん、おじいさんおばあさんまで、誰に
でもわかりやすく面白く授業してくれます。是非ともご参
加ください。



日時：2021年4月29日(木・祝)
午前10時～12時

会場：寿都町総合文化センター 2階会議室

参加費：無 料

◆かわはらしげお先生プロフィール

札幌学院大学人文学部教授。1957年北海道長沼町生まれ。

1980年より北海道内の高校教師として社会科を教える。2011年から市民に向けての「原発出前授業」を開始し、その回数は10年間で500回を超えている。2015年より現職。著書：『かわはら先生の原発出前授業①②③』明石書店、『原発と教育』（海象社）他

主催：子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会